

平成28年度学生表彰規程に基づく被表彰者一覧

1. 学生表彰規程第2条第1号イによる表彰(学術研究活動において、国際的規模又は全国的規模の学会から賞を受けたもの)

氏名	所属学部等	学会・競技名等(開催・表彰日等)	表彰理由
カリス アイゼン Charis Eisen	人文学研究科 (社会動態専攻) 博士課程後期課程 2年	若手研究者奨励賞(2015.12.26) 日本社会心理学会	候補者は人文学研究科に入学以来、一貫して選択の文化差に関する研究に取り組んできている。現在博士論文のテーマとして、選択がないような状況における人々の行動の文化差および自己観による影響を検討した研究を行っているが、その研究内容が独創性や発展性の面で高く評価され、学会賞を受賞するに至った。 研究題目: When the Absence of Choice Equals Freedom: Culture and Agency 【補足説明】 日本社会心理学会「若手研究者奨励賞」は優秀な若手研究者の研究活動を支援することを目的としている。
ヒョウドウ リュウキ 兵頭 龍樹	理学研究科 (地球惑星科学専攻) 博士課程後期課程 3年	最優秀発表賞(2016.9.13) 日本惑星科学会	候補者はパリ地球物理学研究所・Charnoz教授、指導教員である大槻教授、東京工業大学・玄田英典特任准教授と共同で土星の輪、及びケンタウルス族小天体の輪の起源を明らかにする研究を行い、第一著者として発表した二本の論文が米国の国際雑誌Icarus及びAstrophysical Journal Letterに掲載された。このうち土星の輪に関する論文はその起源だけでなく天王星の輪との組成の違いも初めて説明するものであり、USA Todayなど複数の海外メディアで報道された。国内でも神戸新聞が特集記事として報道したほか複数のメディアが報道し、科学雑誌Newtonでも取り上げられた。兵頭君はこの成果に関する本年度の日本惑星科学会秋季講演会での口頭発表に対して、博士学位を持たない学生の発表に与えられる最優秀発表賞を受賞した。またケンタウルス族小天体の輪の論文はその起源を初めて解明したものであり、米国天文学会関係のサイトでハイライト論文として紹介記事が掲載されたほか、国内外のメディアで報道されるなど、高い評価を受けた。 論文:(1) Hyodo, R., S. Charnoz, H. Genda, K. Ohtsuki (2016). Formation of Centaurs' rings through their partial tidal disruption during planetary encounters. Astrophys. J. Lett. 828, L8. (2) Hyodo, R., S. Charnoz, K. Ohtsuki, H. Genda (2017). Ring formation around giant planets by tidal disruption of a single passing large Kuiper belt object. Icarus 282, 195. 【補足説明】 日本惑星科学会: 1992年設立 21世紀に向けわが国独自の月・惑星探査も本格化する中であって、日本での惑星科学を推進し、さらにその成果を広く社会に還元、知見を普及することを目的としている。
ゼン コウキョウ 全 香玉	システム情報学研究科 (システム科学専攻) 博士課程後期課程 3年	平成28年度光学奨励賞(2016.11.2) 一般社団法人日本光学会 Student Award(2016.10.31) 日本光学会年次学術講演会OPJ2016	候補者は、平成28年に以下の2つの表彰を受けている。特に1は一般社団法人日本光学会から、光学に於ける新進の研究者に対して表彰の年に満30歳未満の者に贈られる賞である。 1. 一般社団法人日本光学会から平成28年度光学奨励賞を受賞した。これはファーストオーサーとして発表した学術論文に対して高い評価を得たものである。(2016年11月2日) 2. 日本光学会年次学術講演会OPJ2016のOSJ-OSAジョイントシンポジウムにおいて英語での学生講演の中から優秀な講演が認められStudent Awardを受賞した。(2016年10月31日) 【補足説明】 日本光学会: 1952年に応用物理学会の一組織として設立された光学懇話会が、1989年に日本光学会に名称変更した。
クサモト タモン 楠本 多聞	海事科学研究科 (海事科学専攻) 博士課程後期課程 2年	学生優秀講演賞(2016.9.22) 第59回放射線化学討論会	候補者は、2016年9月20日から22日にかけて、量子科学技術研究開発機構QST・高崎量子応用研究所で開催された第59回放射線化学討論会において学生優秀講演賞を受賞した。当討論会は日本放射線化学会が毎年開催している全国規模の学術集会である。講演タイトルは『PADC飛跡検出器の放射線高感受性部にみられる段階的な損傷形成』であり、大阪大学、QST・放射線医学総合研究所、ブルゴーニュ・フランシュコンテ大学(仏)、ストラスブール大学(仏)との共同研究の成果であった。ストラスブール大学とはコチュテル(博士共同指導)を進めており、国際共同研究を主体的に担っていることをここに特筆する。 【補足説明】 日本放射線化学会: 1965年設立 放射線化学に関する物理、化学およびその他の分野の研究者相互の連絡をはかり、放射線化学の基礎的ならびに応用的研究の発展に寄与することを目的としている。

2. 学生表彰規程第2条第2号イによる表彰(公認課外活動団体の活動において、国際的規模の競技会等において優秀な成績を修め、又は高い評価を受けたもの)

◎個人

氏名 (団体名)	所属学部等	表彰理由
タラ コウキ 多田羅 光樹 (カヌー部)	発達科学部 3年	ドイツで開催された2016カヌーマラソン世界選手権大会男子U23日本代表として出場した。
エトウ ソウ 遠藤 颯 (アメリカンフットボール部)	工学部 3年	第2回アメリカンフットボール大学世界選手権2016の日本代表に選出され、守備の要の選手として出場し、チームもメキシコ、米国に次ぐ3位の成績を残した。

3. 学生表彰規程第2条第2号ロによる表彰(公認課外活動団体の活動において、全国的又は地区的規模の競技会等において優秀な成績を修めたもの)

◎個人

氏名 (団体名)	所属学部等	表彰理由
ヤマモト マホ 山本 真穂 (女子タッチフットボール部)	発達科学部 3年	第22回全日本王座決定戦「さくらボウル」で3年連続日本一に貢献し、最優秀選手に選出された。
クマガワ ヨウカ 熊澤 陽香 (女子タッチフットボール部)	発達科学部 3年	第25回東西大学王座決定戦「プリンセスボウル」で3年連続大学日本一に貢献し、最優秀選手に選出された。
ザコ ケンセイ 座古 健世 (男子ラクロス部)	農学部 4年	第8回全日本ラクロス大学選手権大会決勝戦で準優勝に貢献し、男子優秀選手賞に選出された。
コダマ シンタロウ 児玉 真太郎 (男子ラクロス部)	経済学部 4年	第27回関西学生ラクロスリーグ戦において、3年ぶりの優勝に貢献し、リーグ最優秀選手賞に選出された。
イノモト ソラ 井ノ本 宙 (水泳部)	発達科学部 4年	第63回全国国公立大学選手権水泳競技会で、200m平泳ぎの種目で3位の成績を修めた。

◎団体

団体名	表彰理由
女子タッチフットボール部	第25回東西大学王座決定戦「プリンセスボウル」で3年連続優勝を果たし、さらに全日本王座決定戦第22回「さくらボウル」でも勝利し、3年連続日本一となった。
男子ラクロス部	第27回関西学生ラクロスリーグ戦で3年ぶりに優勝し、各地区上位校で争われる第8回全日本ラクロス大学選手権大会で準優勝を果たした。
放送委員会	第33回NHK全国大学放送コンテスト映像番組部門で第1位と第3位、映像CM部門で第2位、ラジオドラマ部門で第3位を獲得した。

4. 学生表彰規程第2条第2号二による表彰(卒業年度に当たる者で、在学中の課外活動において特に顕著な功労があったもの)

◎個人

氏名 (団体名)	所属学部等	表彰理由
フナガ ユメ 福長 迪女 (女子タッチフットボール部)	経済学部 4年	平成27年度3年次に主将として、チームをプリンセスボウルとさくらボウル2連覇に導き、今年度4年次では選手としてオフENSEの要として牽引し、3年連続日本一に貢献した。また、関西オールスターメンバーにも選出された。

5. 学生表彰規程第2条第4号による表彰(特に優れた業績、功績等があったと認められるもの)

氏名 (団体名)	所属学部等	学会・競技名等(開催・表彰日等)	表彰理由
イ サンジヨ 李 相典	経営学研究科 (経営学専攻) 博士課程後期課程 3年	第4回碩学舎賞(2016.2.8) 二席	候補者は、第4回碩学舎賞に応募した学術論文「観光客ベース・ディステーション・ブランド・エクイティ・モデルの検証: リピート観光客の感情信頼と経済価値による違い」が2016年2月28日に二席を受賞し、表彰された。 【補足説明】 碩学舎賞: 書籍出版販売の碩学舎が主催し、経営学分野の大学院生(博士後期課程)による優れた研究論文を表彰
ヤマモト コウタロウ 山本 浩太郎	理学研究科 (生物学専攻) 博士課程後期課程 3年	・Proceedings of the National Academy of Sciences (2016, vol. 113: 3891-3896) ・日経バイオテクオンライン(2016.3.23)	候補者は、薬用植物のニチニチソウを材料に「植物二次代謝における細胞特異的物質分布」の研究を進め、新規技術を利用することで、植物二次代謝の新しい描像を描き出すことに成功した。彼の研究は国内外で高い評価を受け、著名な研究誌Proceedings of the National Academy of Sciences (2016, vol. 113: 3891-3896)に掲載され、内外のネットニュースにも取り上げられた。 また、日本学術振興会育志賞の選考において、現在面接審査を終え、最終結果待ちの状況となる。
ツチダ シュウヘイ 土田 修平	工学研究科 (電気電子工学専攻) 博士課程後期課程 3年	総務省戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)平成28年度「異能vation」プログラム(2016.10.21)	候補者は、技術課題「錯覚ボールの実現」にて、総務省戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)平成28年度独創的な人向け特別枠「異能vation」プログラムへの1,218件に及ぶ応募から、わずか10件に絞られる最終選考を通過し、ICT分野の「異能」な人材として認定された。 さらに候補者は、2014年度未踏IT人材発掘・育成事業)、公益財団法人 立石科学技術振興財団 2015年度研究助成(C)、平成27年度研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム(START)技術シーズ選抜育成プロジェクト[ロボティクス分野]に採択されている。このように、候補者の学術研究活動の成果が、総務省、IPA、民間財団、JSTの各機関から高く評価されていることから、表彰されるにふさわしいと考える。 【補足説明】 「異能(Innovation)」プログラムとは、「破壊的イノベーション」の種になるような技術課題に挑戦する方を支援している。
カガワ タカヒロ 香川 拓大 ワダ ヨシヒロ 和田 佳大	工学部情報知能工学科 4年	ベストプレゼンテーション賞 (2016.10.16) 神戸・バルセロナ国際連携ワークショップWDVC2016	2016年5月および10月に、スペイン・バルセロナおよび神戸で行われた神戸・バルセロナ国際連携ワークショップWDVC2016で、ベストプレゼンテーション賞を受賞した。表彰候補者は、都市のオープンデータを用いた防犯アプリケーションPRISM(Personalized Real-time Information with Security Map)を開発した。PRISMは、兵庫県下で発生している事件を、ユーザひとりひとりの生活圏に合わせてリアルタイムに地図上に可視化するアプリである。学部4年生でありながら、国際ワークショップで発表・デモし、表彰を受け、神戸大学のプレゼンスを国内外に示したことは学生表彰にふさわしいと考える。
(神戸大学学生フォーミュラチームFORTEK)	[チームリーダー] 工学部機械工学科 3年 ナガイ シンイチロウ 永井 紳一朗	第14回学生フォーミュラ大会総合8位 (2016.9.10) 日本自動車工業会会長賞(2016.9.10)	自動車技術会が主催する第14回学生フォーミュラ大会に出場し、参加106校のチームによる競技会で総合8位の成績を納めた。また、設計・製作した車両に対して、日本自動車工業会会長賞を受賞した。 学生フォーミュラチームは、第2回学生フォーミュラ大会に出場しているが、目標の10位以内を達成することができた。